



化学でもっといいこと

Something Better with Chemicals

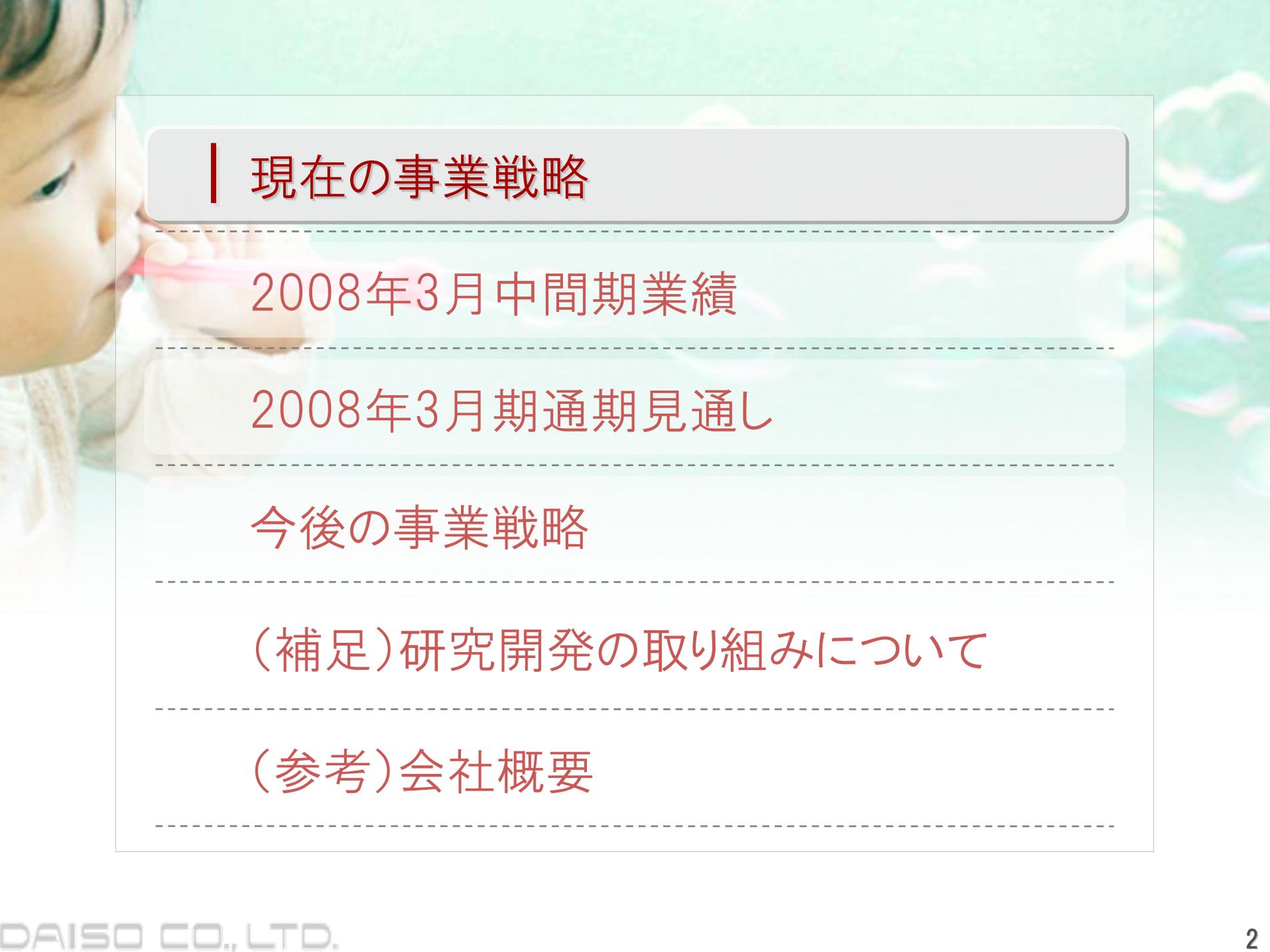
ダイソー株式会社

2008年3月中間期決算説明会

(東証・大証第一部:4046)

2007年12月7日

DAISO



現在の事業戦略

2008年3月中間期業績

2008年3月期通期見通し

今後の事業戦略

(補足)研究開発の取り組みについて

(参考)会社概要

2008年3月期上半期を振り返って

今年度上半期も前年同期比で、増収・増益を達成

2008年3月期は
中計「ADVANCE-08」を
1年前倒しで達成へ

売上高780億円
経常利益45億円へ

効果的な設備増強で「パワーチェーン構想」を推進

機能化学品の構成比増加 32%⇒36%へ

基礎化学品が堅調

基礎化学品の安定した事業基盤

当社の競争優位性

塩素需要好調でかせいソーダの増産が可能

クロール・アルカリ(かせいソーダ、塩素ガス、塩化物)

機能化学品の塩素誘導製品(アリエーテル・エピクロルヒドリンゴム等)

当社の塩素需要が好調な理由

良好なポジショニング

国内市場シェアの高い
エピクロルヒドリンを増産

+

中国の状況

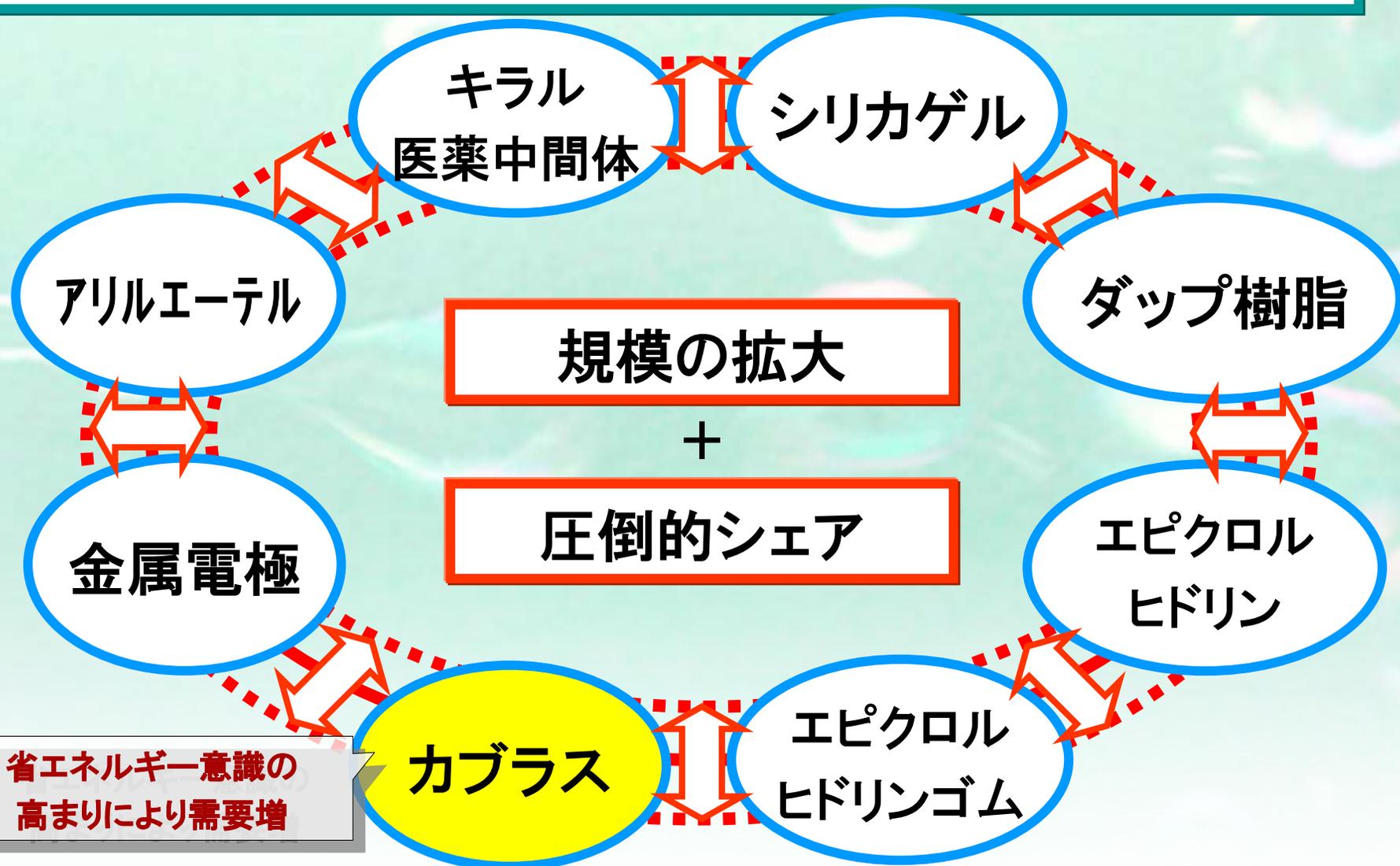
エピクロルヒドリンは
環境規制により生産量
に限界

エピクロルヒドリンの需要拡大⇒塩素を増産

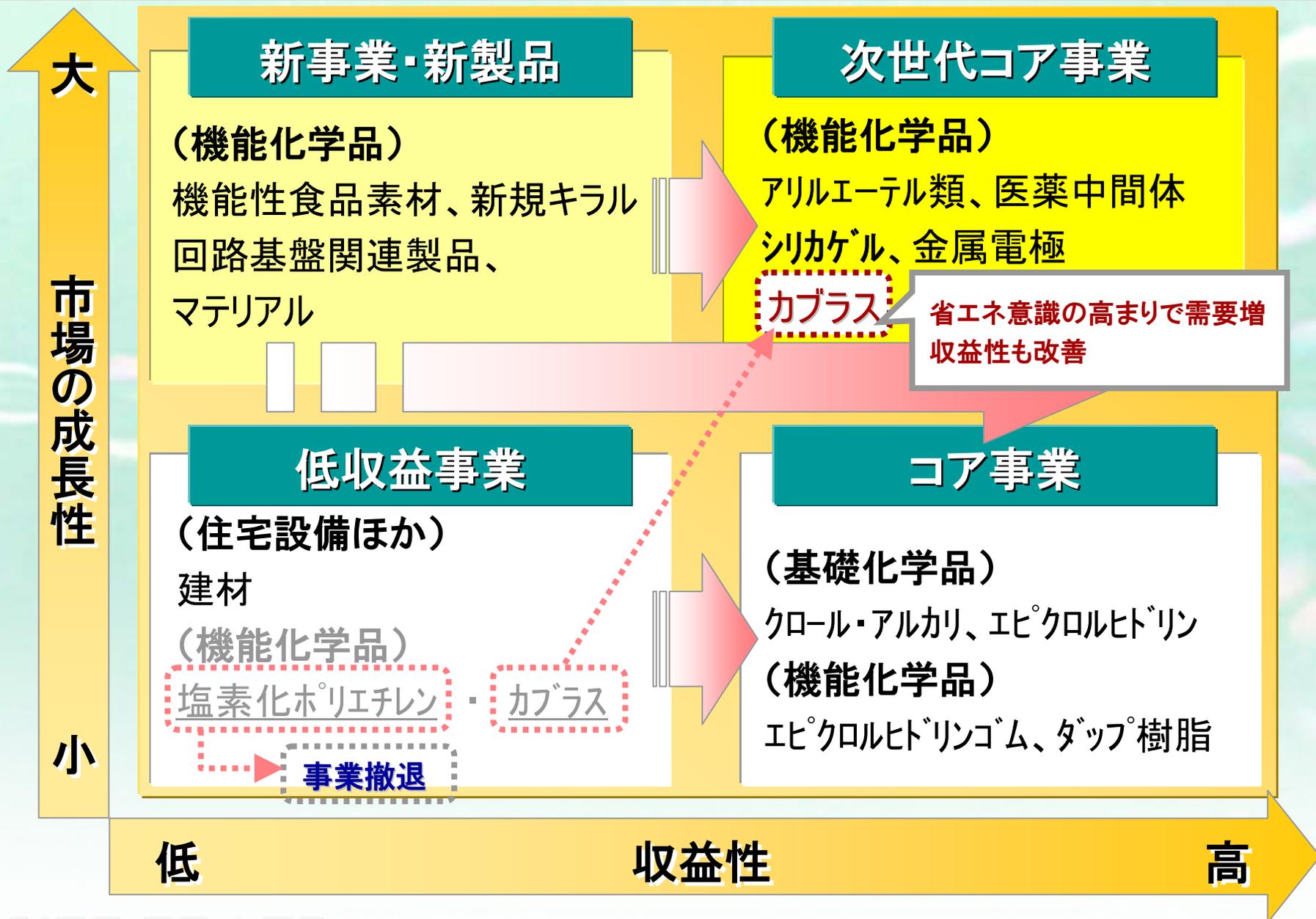
他社(塩ビ系など)は塩素需要低迷⇒減産基調

パワーチェーン構想

競争力を持った事業・製品の育成・強化中



カブラスが次世代コア事業に



効率的な設備投資が結実へ

売上高の伸び > 生産能力の伸び

製品別投資の推移（億円）

		NEXTAGE-05 03/4～06/3	ADVANCE-08 06/4～09/3	生産能力	売上高*
コア事業	ダップ樹脂	3.1	16.0	1.7倍	1.9倍
	エピクロルヒドリンゴム	0.8	2.0	1.1倍	1.6倍
	エピクロルヒドリン	2.2	17.0	1.1倍	2.4倍
	クロール・アルカリ	—	3.0	1.1倍	1.3倍
次世代 コア事業	アリルエーテル類	3.3	24.0	2.1倍	2.8倍
	キラル医薬中間体	3.7	20.0	3.0倍	1.6倍
	シリカゲル	—	9.0	2.0倍	2.3倍
	カブラス	—	3.0	1.7倍	3.0倍
コストダウン		11.9	27.0		
その他(既存設備維持更新等)		53.0	79.0		
合計		78.0	200.0		

*04年3月期実績vs09年3月期見込

機能化学品の海外売上高が順調に増加

ドイツ現地法人化(08年1月)で営業体制さらに強化

- 4極体制
- 今後の展開
- ダイソーケミカル(株)現地法人

米国売上高

14億円⇒20億円(+43%)

欧州売上高

29億円⇒40億円(+38%)

アジア売上高

51億円⇒60億円(+18%)

デュッセルドルフ事務所
(1990年10月)

上海事務所
(2006年4月)

アメリカ事務所(ニュージャージー)
(2005年12月)

ダイソーケミカル(株)
上海現地法人
(2005年10月)

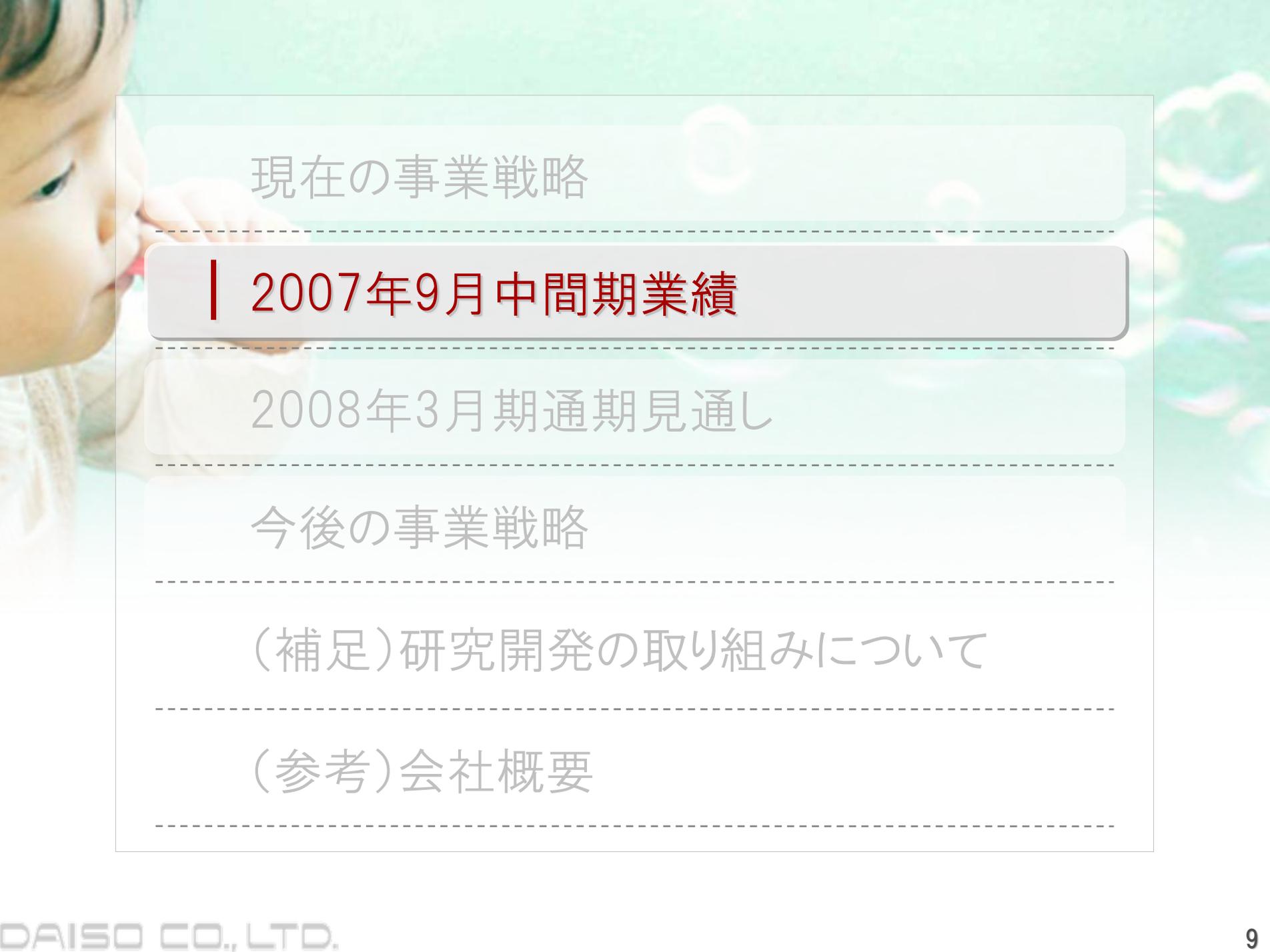
ダイソーケミカル(株)
台湾現地法人
(2006年3月)

DAISO Fine Chem USA, Inc.
(サンノゼ)
(2006年4月)

海外売上高

96億円⇒130億円(+35%)

(05年3月期⇒08年3月期計画)



現在の事業戦略

| 2007年9月中間期業績

2008年3月期通期見通し

今後の事業戦略

(補足)研究開発の取り組みについて

(参考)会社概要

2007年9月中間期の主な施策

生産能力増強投資を実施

医薬中間体(新設)	20億円	松山工場
エピクロールヒドリン	15億円	松山工場
シリカゲル	8億円	尼崎工場

ファイナンス70億円を実施 (07年11月)

ゼロクーポン、オーバーパー発行

ERP(基幹業務システム)の稼動

経営環境の変化に迅速に対応できる体制を整備

ドイツ現地法人化を正式決定 (08年1月予定)

07年9月中間期・業績ハイライト

好調： 期初計画上回る増収、20%以上の増益を達成

売上高+7.8% 経常利益+28.1%

	06/9	売上比	07/9	売上比	前年同期比		期初計画	
	A		B		B-A	増減率	C	B-C
(単位:百万円)								
売上高	34,996	—	37,737	—	+2,741	+7.8%	37,000	+737
営業利益	1,658	4.7%	2,069	5.5%	+411	+24.8%	1,800	+269
経常利益	1,694	4.8%	2,170	5.8%	+476	+28.1%	1,900	+270
中間純利益	909	2.6%	1,184	3.1%	+275	+30.3%	1,000	+184

セグメント別売上高

「機能化学品」好調、「基礎化学品」堅調

「機能化学品」が設備増強効果により +19.4%

(単位:百万円)	06/9	構成比	07/9	構成比	増加額	増減率	期初計画	増減
基礎化学品	18,767	53.6%	19,798	52.5%	+1,031	+5.5%	19,000	+798
機能化学品	11,239	32.1%	13,424	35.6%	+2,185	+19.4%	13,000	+424
住宅設備ほか	4,989	14.3%	4,514	11.9%	△475	△9.5%	5,000	△486
合計	34,996	100.0%	37,737	100.0%	+2,741	+7.8%	37,000	+737

売上高増加要因(+27億円、+7.8%)

アリルエーテル類など機能化学品が好調

機能化学品	+22億円	基礎化学品	+10億円
アリルエーテル類	+7	クロール・アルカリ	+4
エピクロルヒドリンゴム	+3	エピクロルヒドリン	+2
ダップ樹脂	+2	塗料その他	+3
カブラス	+2		
キラル医薬中間体その他	+8		

金属電極・
吸水性樹脂向けなど

住宅設備ほか	-5億円
ダップ化粧板ほか	-5

住宅着工件数減少

主力4製品が能力増強で需要増加に対応

アリルエーテル類

対前年同期比+54%



シランカップリング剤
(今後航空機などの
軽量化にも期待大)
欧米および中国向け

エピクロルヒドリンゴム

対前年同期比+14%



OA機器(アジア向け)
自動車用ゴム
(欧米および中国向け)

ダップ樹脂

対前年同期比+14%



UV硬化型インキ
(米国・中国向け)
ホットスタンピング
(アジア向け)

カブラス(省エネタイヤ用改質剤)

対前年同期比+58%



自動車用タイヤの
燃費向上
(中国向け)

長期に需要拡大するエポキシ樹脂(国内販売シェア1位)

エポキシ樹脂向けが好調

エポキシ樹脂

需要拡大基調は今後も続く

潜在需要も増加

新用途へ展開

電気

塗料

航空機 (外壁)



IT関連
(積層板、封止材)



自動車(下塗り)



船舶



セグメント別営業利益

機能化学品： 拡販で設備増強・更新の償却費負担を吸収

基礎化学品： 製造プロセスの改善や市況堅調もあり好調続く

(単位:百万円)

	06/9	07/9	増減額	増減率
基礎化学品	778	1,240	+462	+59.4%
機能化学品	1,193	1,207	+14	+1.2%
住宅設備ほか	18	15	△3	△16.7%
小計	1,990	2,463	+473	+23.8%
配賦不能 営業費用	△331	△394	+63	+19.0%
合計	1,658	2,069	+411	+24.8%

営業利益増加要因(+4億円、+24.8%)

原料高・設備投資負担を販売数量増、コストダウンなどで吸収





現在の事業戦略

2007年9月中間期業績

| 2008年3月期通期見通し

今後の事業戦略

(補足)研究開発の取り組みについて

(参考)会社概要

2008年3月通期見通しのポイント

利益上方修正で過去最高の売上高・利益達成へ

売上高: 780億円(+7.8%)、経常利益: 45億円(+20.5%)

営業利益率も改善

機能化学品・基礎化学品が増収増益へ

-「機能化学品」・「基礎化学品」は売上・利益ともに上方修正

営業利益率5.0%→5.7%

- ・設備能力増強による販売数量の増加
- ・コストダウン投資が寄与
- ・原料高に対応した販売価格の改定を実施予定

2008年3月通期見通し

営業利益・経常利益・当期純利益全て+20%以上増益

(単位:百万円)	07/3		08/3			増減率
	実績	売上比	期初計画	修正計画	売上比	
売上高	72,398	-	78,000	78,000	-	+7.8%
営業利益	3,610	5.0%	3,900	4,400	5.7%	+21.9%
経常利益	3,735	5.2%	4,000	4,500	5.8%	+20.5%
当期純利益	1,974	2.7%	2,100	2,400	3.1%	+21.6%

セグメント別売上高見通し

基礎化学品：  引き続き堅調な需要を見込む

機能化学品：  設備投資効果で主要製品が増収(+17.7%)

住宅設備ほか：  上半期の停滞織込み通期計画を下方修正

(単位:百万円)	07/3		08/3		増減率
	実績	構成比	計画	構成比	
基礎化学品	38,462	53.1%	40,000	51.3%	+4.0%
機能化学品	24,209	33.4%	28,500	36.5%	+17.7%
住宅設備ほか	9,726	13.4%	9,500	12.2%	△2.3%
合計	72,398	100.0%	78,000	100.0%	+7.7%

売上高見通し要因(+56億円、+7.7%)

「機能化学品」が通期にわたり増収を牽引(+43億円)

アリルエーテル類： シランカップリング剤用途向けが拡大

エピクロルヒドリンゴム： OA機器、自動車ゴム用途向け輸出が増加へ

ダップ樹脂： UVインキ、ホットスタンプ用途向けが好調

機能化学品	+43億円	基礎化学品	+15億円
アリルエーテル類	+10	クロール・アルカリ	+6
エピクロルヒドリンゴム	+6	エピクロルヒドリン	+2
ダップ樹脂	+4	塗料その他	+7
金属電極	+4		
カブラス	+4	住宅設備ほか	-2億円
キラル医薬中間体その他	+15	ダップ化粧板ほか	-2

セグメント別営業利益見通し

機能化学品が+5億円を予定

機能化学品+23.9%:販売量増加で大幅増益へ

基礎化学品+16.2%:堅調な主力製品需要とコストダウンが寄与

(単位:百万円)	07年3月期	08年3月期		
	実績	計画	増減額	増減率
基礎化学品	2,237	2,600	+363	+16.2%
機能化学品	2,058	2,550	+492	+23.9%
住宅設備ほか	37	50	+13	+35.1%
小計	4,333	5,200	+867	+20.0%
配賦不能 営業費用	△723	△800	△77	—
合計	3,610	4,400	+790	+21.9%

営業利益見通し増加要因（+8億円、+21.9%）

機能化学品の売上増が利益に貢献



設備投資額・研究開発投資の見通し

設備投資計画： 期初計画通り70億円投資を予定

下半期も機能化学品(シカゲルなど)を中心に設備投資

研究開発費： キラル医薬中間体が中心

(単位:百万円)

	06年3月期 実績	07年3月期 実績	08年3月期 計画	増減
設備投資額	3,014	4,857	7,000	+44.1%
減価償却費	2,083	2,319	3,200 (*300)	+38.0%
研究開発費	1,820	2,009	2,100	+4.5%

* 税制改正に伴う減価償却実施



現在の事業戦略

2007年9月中間期業績

2008年3月期通期見通し

| 今後の事業戦略

(補足)研究開発の取り組みについて

(参考)会社概要

新中期経営計画構想(08年度～10年度)

2010年度:売上高1000億円、経常利益60億円

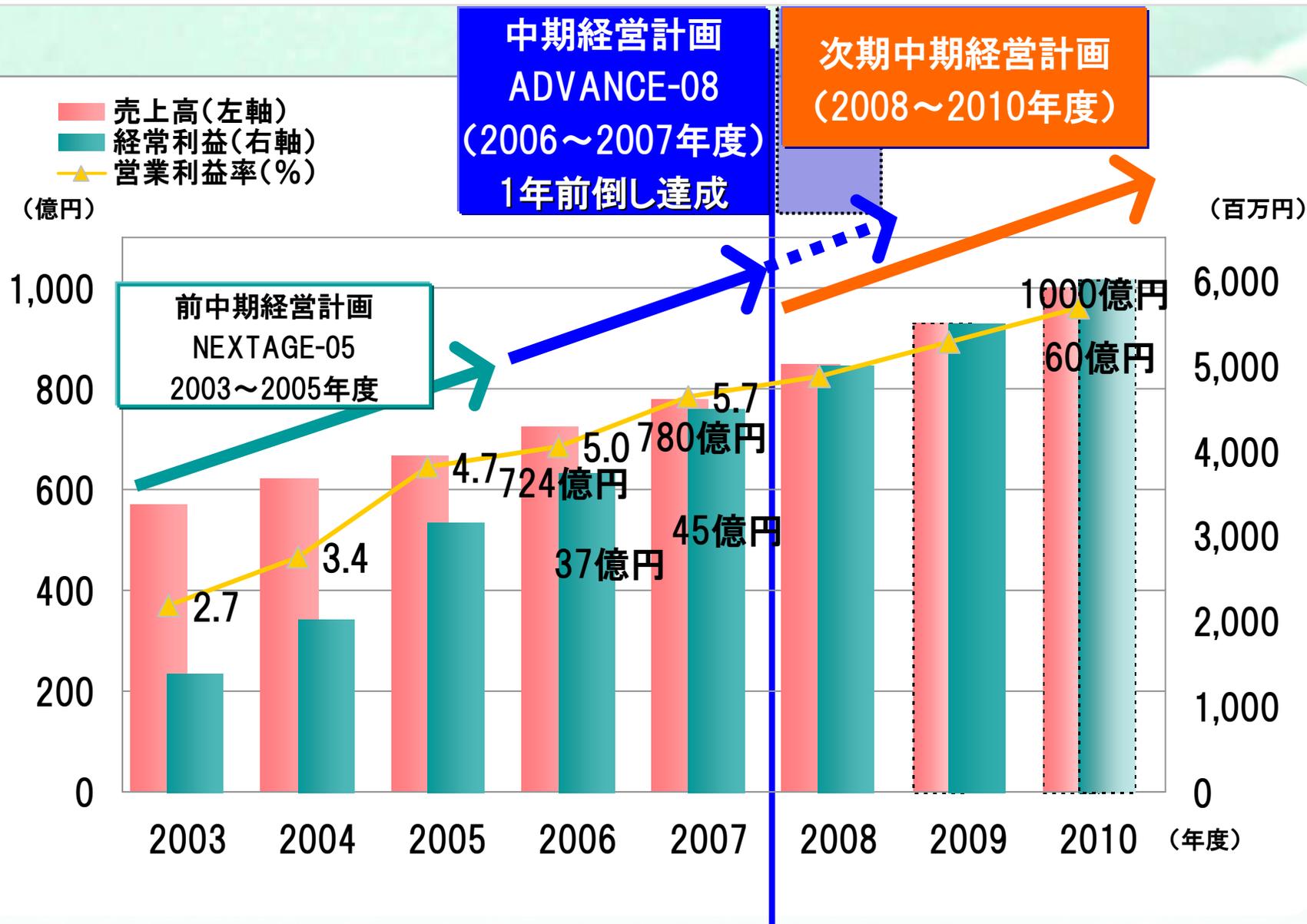
グローバル展開による機能化学品事業の競争力強化

事業領域拡大のための研究開発体制の確立

基本構想

1. パワーチェーン構想を中心とする経営基盤の拡充
2. 新事業の育成および事業領域の拡大(M&Aの推進)
3. 海外展開の強化
4. 組織の簡素化によるグループ経営の一体化

中計「ADVANCE-08」經常利益45億を「前倒し」達成へ



ターゲット100(経常利益100億円)へ加速

コア事業の一段の競争力強化
グローバル展開の加速

(08~10年度)

(2015年)
創立100周年

ターゲット

(06~08年度)

次期中計

100
経常利益
100億円

(03~05年度)

ADVANCE-08

売上高
1,000億円
経常利益
60億円

NEXTAGE-05

事業領域の拡大

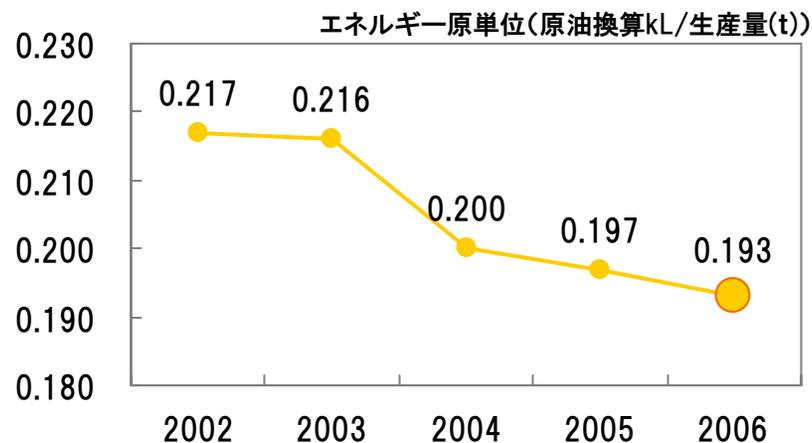
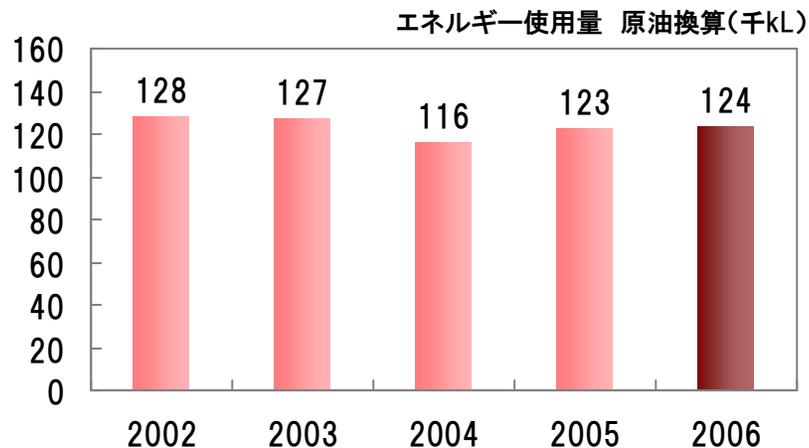
企業体質の強化

パワーチェーンの推進
M&A、新規事業の創出
海外展開

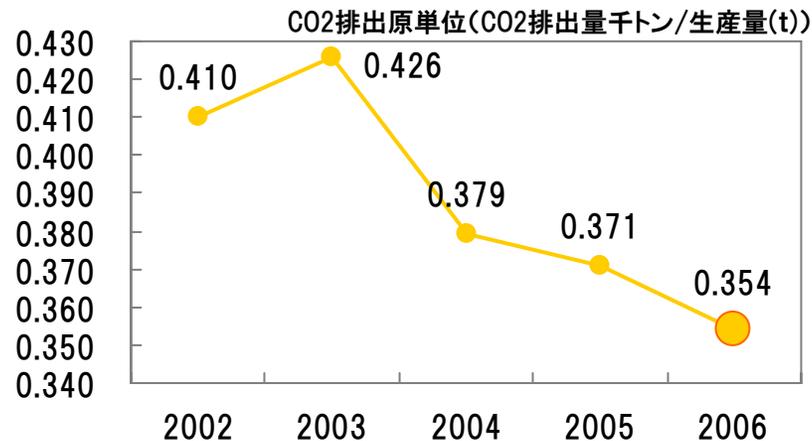
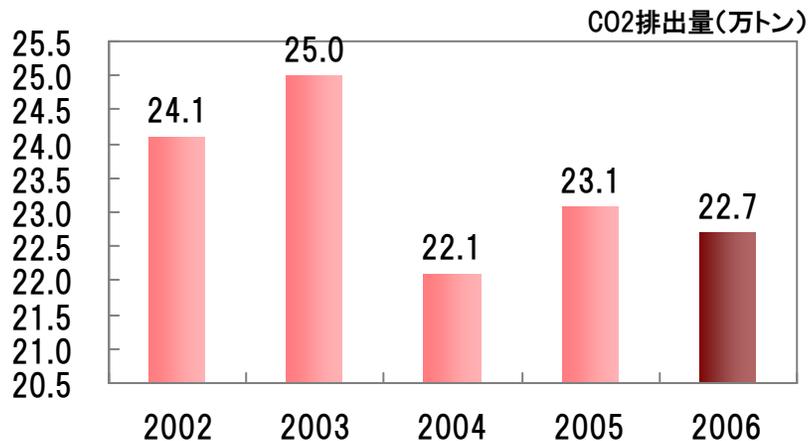
現在

環境保全(レスポンスブル・ケアなど)への取り組み

エネルギー使用量、エネルギー原単位の推移(原油換算kL/生産量t)



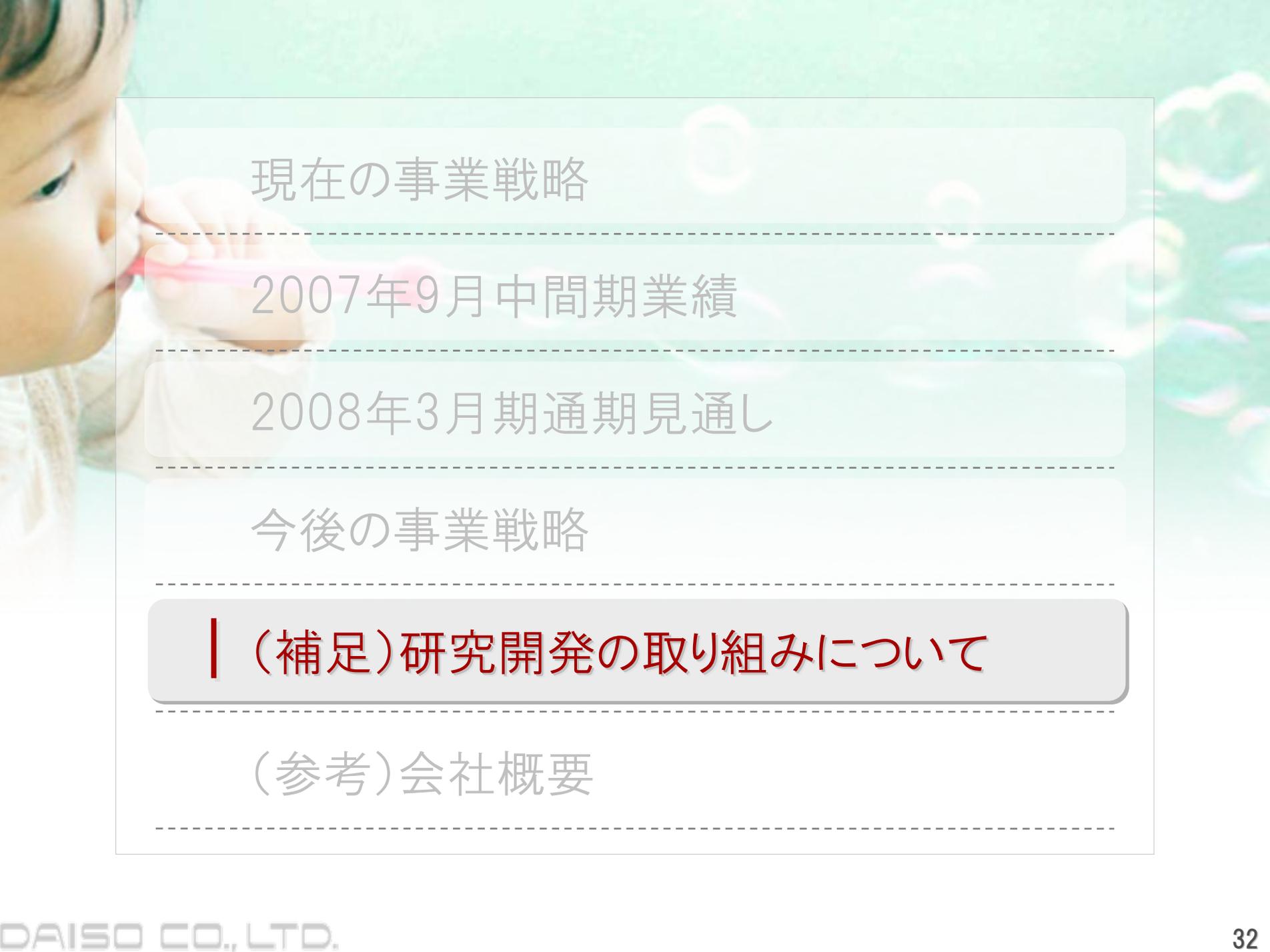
エネルギー使用にともなうCO2排出量、CO2排出原単位の推移



安定した株主還元を実施

08年3月期：前期同様年6円を予定

	06年3月期 実績	07年3月期 実績	08年3月期 計画
通期	6円	6円	6円
中間	2.5円	3円	3円
期末	2.5円	3円	3円
記念配	1円	—	—
配当性向	36.3%	32.9%	27.3%



現在の事業戦略

2007年9月中間期業績

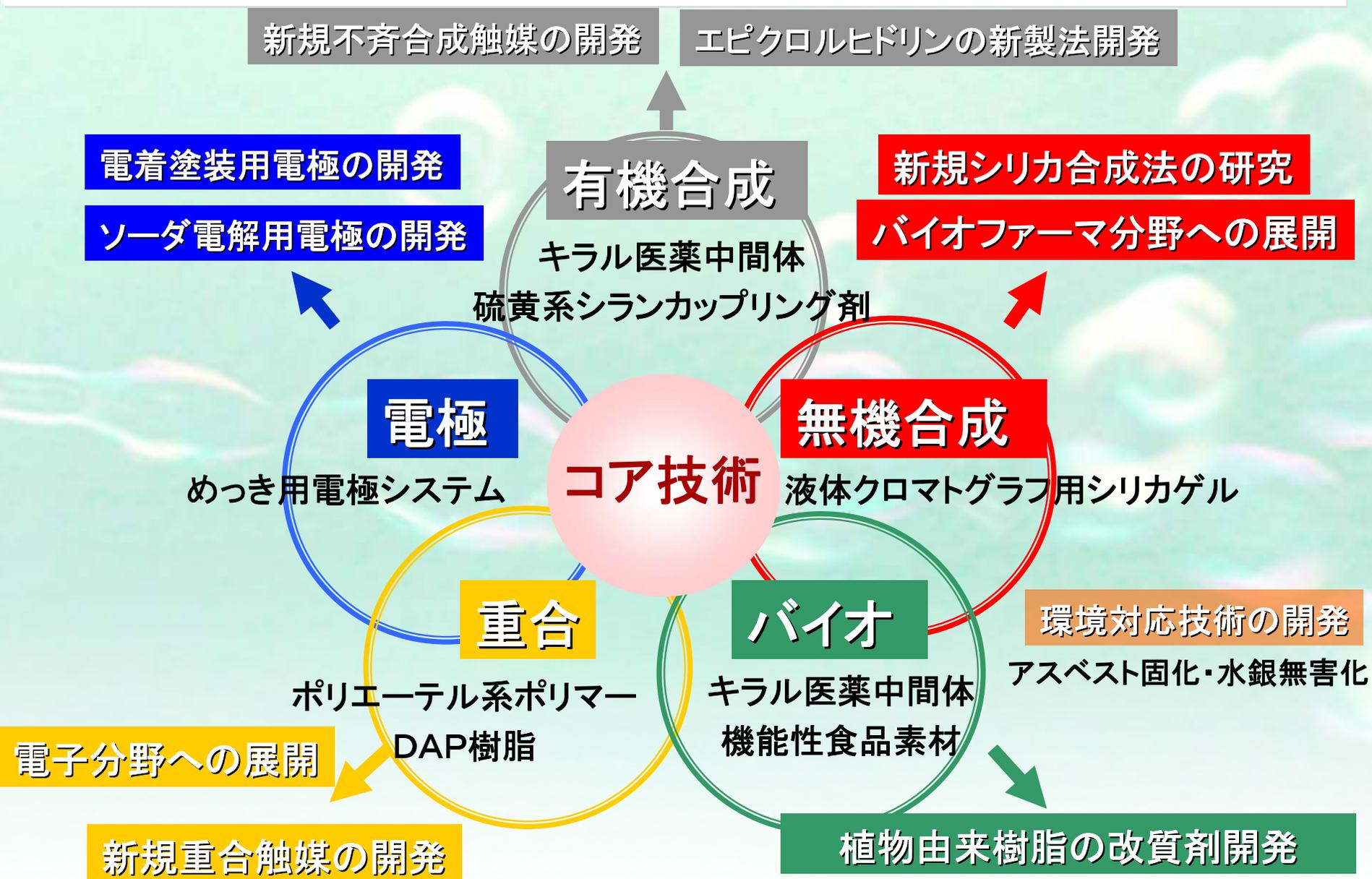
2008年3月期通期見通し

今後の事業戦略

| (補足)研究開発の取り組みについて

(参考)会社概要

コア技術を囲む5つの研究テーマの現状



新規不斉合成触媒の開発

オリゴマー触媒技術の確立

2007年: Jacobsen教授の触媒基本技術を導入

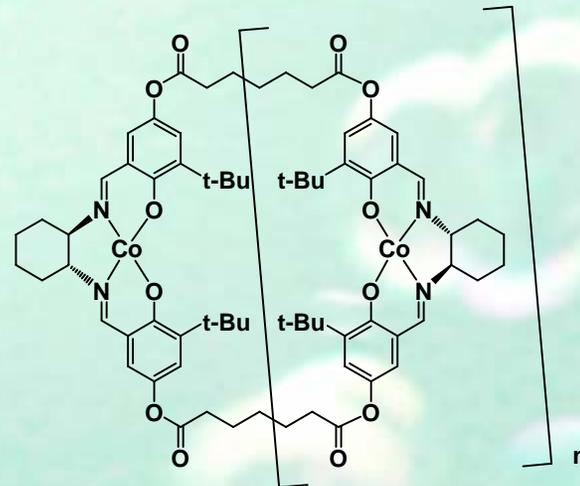
触媒活性: 30~50倍

製造コストの低減: 10~20%

生産品目の拡充: 100→150種類

(例) エポキシ化合物

スチレンオキサイド誘導体 など



光学活性体製造技術で量産体制へ
ーバイオ技術と触媒技術の融合ー



医薬中間体製造プラント新設
(07年5月/松山工場)・生産能力3倍に

植物由来樹脂(ポリ乳酸)の改質剤開発

ポリ乳酸の耐熱性・加工性を飛躍的に向上する改質剤

当社バイオ技術開発の成果の一つ
低コスト発酵技術を開発(大阪市立工業研究所との共同開発)
高効率かつ選択的に目的物を産出する発酵微生物の発見
安価なバイオマス原料を用いる発酵法

(一部実用化)

ポリ乳酸

耐熱性・加工性悪く
用途限定的



(当社が開発)

ポリ乳酸 + 改質剤

PBT樹脂 耐熱性↑
PET樹脂 透明性↑



コスト低減で光学材料や電子部品など汎用石油系樹脂を代替

(商業生産体制に入る)

当面は自動車内装材などがターゲット

+

繊維・フィルムメーカーと協業推進

電着塗装用陽極システムの実用化がスタート

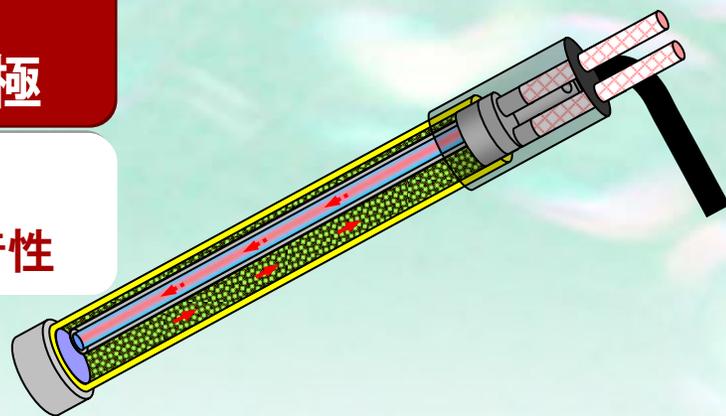
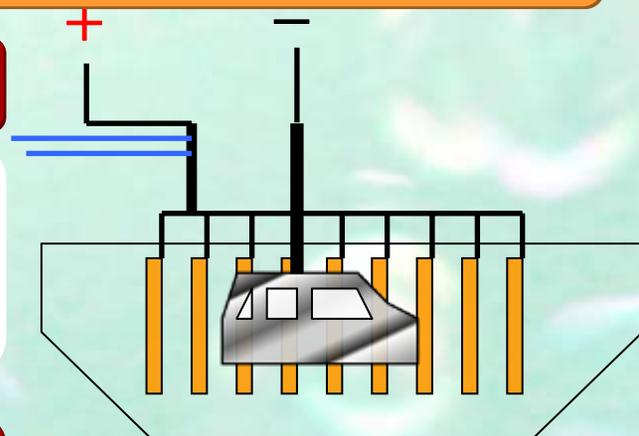
国内自動車メーカー向けに出荷開始(2007年夏～)

金属電極事業拡充の成果

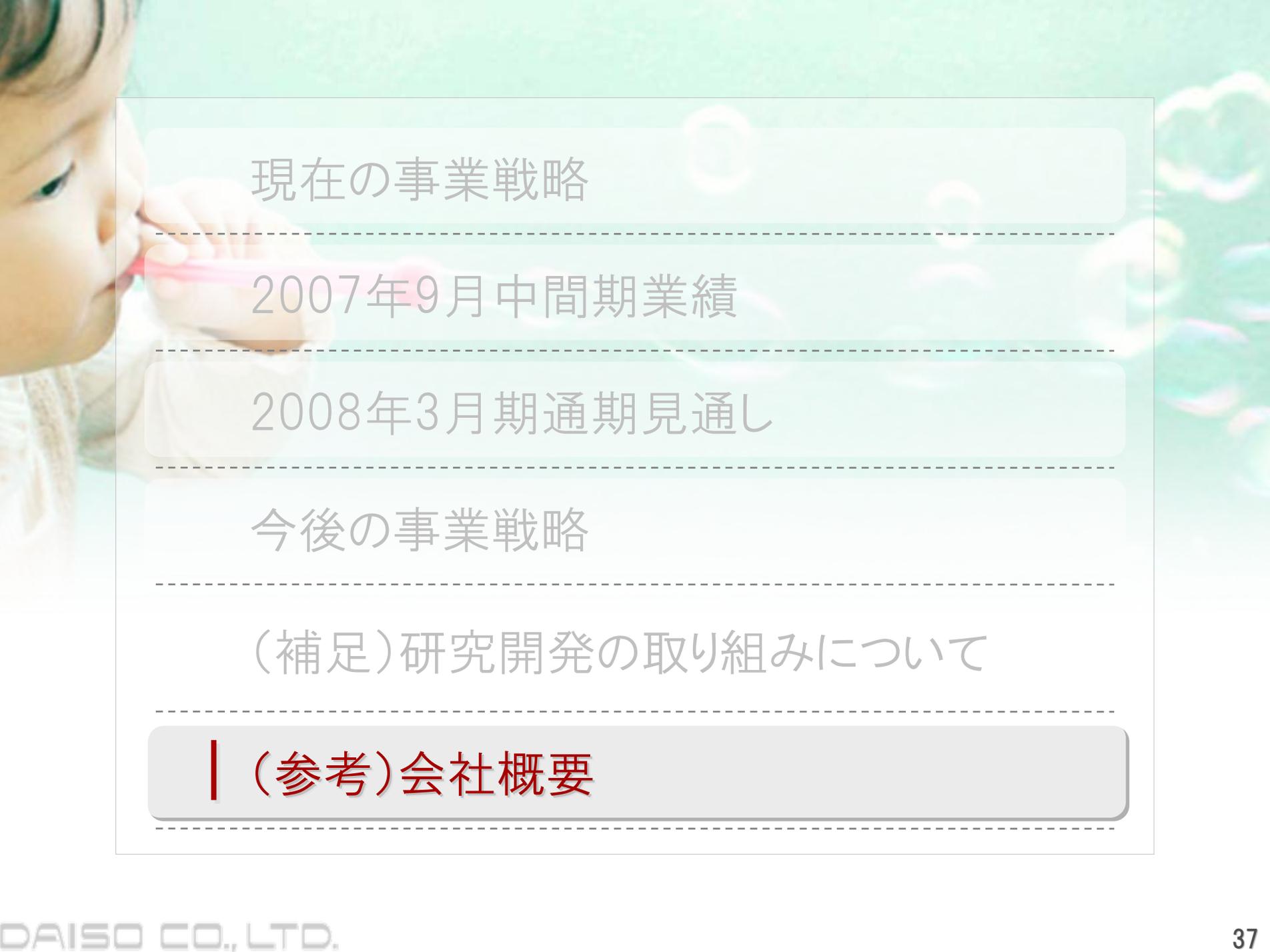
鉄鋼向け亜鉛鋼板・ソーダ電解用電極
電解銅箔用電極・回路基板用めっきシステム
→電着塗装用陽極システム

独自技術の複合化
独自の陰イオン交換樹脂+長寿命不溶性陽極

用途:自動車車体の下塗り(防錆処理)
メリット:長寿命化(電極+塗料)、高速電着、均一付着性



売上目標:15億円/年



現在の事業戦略

2007年9月中間期業績

2008年3月期通期見通し

今後の事業戦略

(補足)研究開発の取り組みについて

| (参考)会社概要

創業以来、一貫して研究開発型の化学会社を志向

- わが国初の「食塩電解法かせいソーダ製造会社」
- 「基礎原料から製品までの一貫生産」を実現
- 「トップシェア」の製品を次々に開発

成 果 (例)



ダップ樹脂



エピクロルヒドリン



エピクロルヒドリンゴム



医薬中間体



アリルエーテル



液体クロマトグラフィー用シカゲル



金属電極



カブラス

生産・開発体制： 西日本を中心に6工場・1研究所

〈主力製品〉

医薬中間体、ダップ樹脂、
アリエーテル、かせいソーダ、
液体塩素、かせいカリ

【松山】



【水島】



〈主力製品〉

アリルクロライド、
エピクロルヒドリン、
エピクロルヒドリンゴム

研究所： 尼崎

【尼崎】



〈主力製品〉

金属電極、シリカゲル
カブラス、かせいソーダ、
液体塩素、水素ガス



【小倉】



〈主力製品〉

かせいソーダ、塩酸、
次亜塩素酸ソーダ

【静岡】



〈主力製品〉

ダップ化粧板、
ダップシート

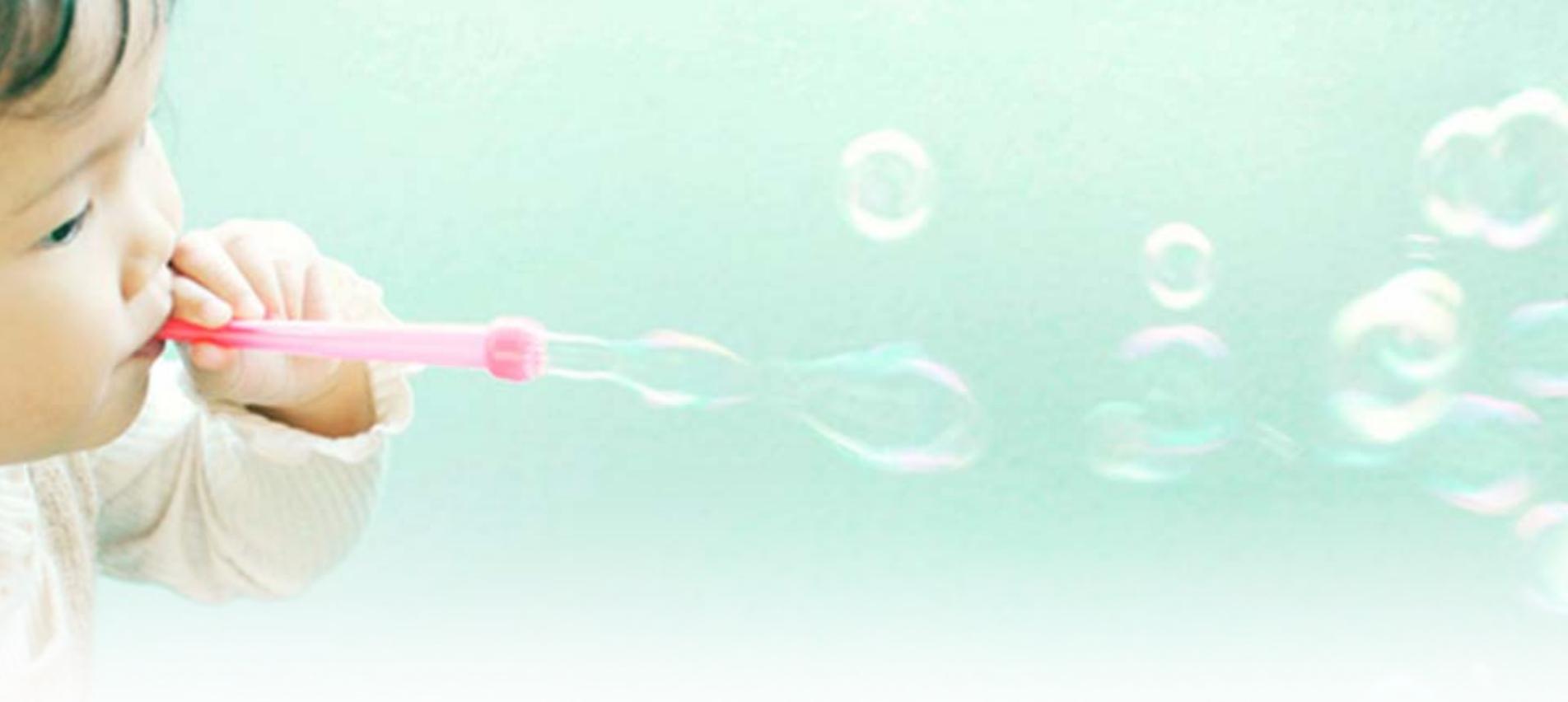
【岡山化成】 (関係会社)



〈主力製品〉

かせいソーダ、
塩素ガス、水素ガス

*07年11月末現在



- ・本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
- ・本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証又は約束するものではありませんのでご了承ください。

2007年12月7日

DAISO